

あけましておめでとうございませす

理事長 岡本祐幸

今回は植物に関する話二題です。10年前の2008年は名大にとって快挙の年でした。皆さんご存知のように、理学部物理学科の坂田昌一教授門下の益川敏英氏と小林誠氏がノーベル物理学賞を、そして、理学部化学科の平田義正教授門下の下村脩氏がノーベル化学賞を同時受賞した年でした。このノーベル物理学賞受賞を記念して、ニュートンのリンゴの木が名大理学部E館の玄関前に、2011年10月25日に植樹されました。これは、名大初代理学部部長であり、当時学士院長だった、柴田雄次



写真1. 名大理学部E館玄関前のニュートンのリンゴの木 (2018年7月4日撮影)。

氏が1964年にイギリスから贈られたニュートンのリンゴの木で、東大附属小石川植物園に植えられているのを株分けされたものです。そして、私は昨年(2018年)春に、この木にたくさんの白い花が咲いているのを初めて見たのですが(実際には、初めての開花は2015年だったそうです)、単独で植えられているリンゴの木が実をつけるには、人工授粉が必要だそう、全学技術センターの伊藤耕さんや理学部庶務係の平野直子さんらが、農学部の果樹園から、フジやハナリンゴの花を持ってきて人工授粉させたところ、初めて、直径7センチぐらいの実が三個成ったのでした(写真1参照)。詳しくは、名大理学同窓会報No.30の記事をご覧ください。三重県尾鷲市須賀利町に普濟寺という曹洞宗の寺があります。この寺は、寛永元年(1624年)の創建ですが、文久元年(1861年)に再建された時の棟梁は、竹中工務店の祖である、宮大工の竹中和泉でした。竹中和泉の手による寺は、分かっているだけで、三重県に四つあるそうです。この寺の天井裏で発見された木板には、大工棟梁竹

中和泉、その左隣に、同脇棟梁利助と書かれています。実は、この利助は、須賀利で船大工(後の濱田造船)をやっていた、私の母方の先祖です。私が昨年10月に普濟寺を訪ねた時に、住職の牧野明徳さんが、不思議な話をしてくれました。本堂前にお祖父さんが植えて100年余り経って、一度も花を咲かせたことがなかった植物の前で、去年(2018年)の春に、奥さんと、「葉にトゲがあつて、子供が触ると危険だから、切つてしまおうか」という話をしたのでそうです。すると、あたかもこの植物が、二人の会話を聞いていたかのように、何と夏から秋にかけて、初めて花を咲かせたのだそうです(写真2参照)。この植物の名前を覚えて下さいと依頼されたのですが、私には分からなかったもので、写真は何枚か添付して、メールで生命理学専攻の白石洋一さんに問い合わせたところ、すぐに返事がきて、『ユツカ蘭』と言われているものに近いように思えます」という文とともに、「季節の花300」というサイトを見せてくれました。それを見ると、葉も花もそっくりで、



写真2. 三重県尾鷲市須賀利町の普濟寺のアツバキミガヨラン (2018年10月20日撮影)。

アツバキミガヨラン(厚葉君が代蘭)とありました。学名は、*Yucca glottifolia* だそうです。このサイトによると、「春と秋に二度咲きする」とありますが、須賀利の花は一回しか咲かなかつたようなので、疑問が残りました。同時に私の次男が調べた北隆館「原色園芸植物大圖鑑」には、アツバキミガヨランの所に、「葉は剣状、灰緑色。先端はとがりとげ状。(中略)花期は7、9月。花茎を高さ1、2mにのぼし円錐花序に鐘形の緑白色花をつける」とあり、年に一回しか咲かないよう、全て辻褄が合いました。皆さん、現在のお仕事が大いに評価されている方はそれで宜しいのですが、そうでない人は、この植物のように100年後に評価が上がり、花を咲かすこともあって希望を持って仕事に励みましょう。本年も組合員の皆様のご多幸を祈ります。